

第6領域「通常学級における特別支援教育の実際Ⅱ」

長澤 正樹

1. 授業の概要

この授業は「通常学級における特別支援教育の実際Ⅰ」の続編として、インクルーシブ教育システム構築の具体的な教育方法のひとつである学習のユニバーサルデザイン（UDL）と、通常の学級から特別支援学校への「学びの連続性」について深めた。

2. 授業の要点

この授業の要点は以下の通りである。

1) 通常学級の学級経営と授業の在り方

最も時間を多く確保したのがUDLであった。理論を深め、手続きに従って授業案を作成し、UDLに従った教育実践に基づき、今後の学習指導の在り方を具体的に考察した。さらに、特別な支援を要する児童生徒への教育と合理的配慮の保障を考えるため、個別の教育支援・指導計画にも時間を多く割いた。

2) 特別な支援を要する児童生徒への教育

今回は知的障害の特別支援学校と発達障害の通級指導教室を取り上げた。ここでの教育はけっして特別ではなく、学びの連続性の保障として通常の場合での教育とのつながりを考察した。

3) ライフステージを見通した特別支援教育

学校教育の前後、つまり就学支援と卒業後の生活を取り上げ、特別支援教育の役割について、包括的にとらえ考察した。

3. 今後の課題

初年度の授業では、実際の学級経営と授業実践を中心とした学びを大切にしたい。今後はこの方針をさらに発展させ、連携協力校での授業実践など、より多く連携していきたい。次に特別な場での教育では、特別支援学級の教育課程と内容について、ゲストティーチャーを招いて取り上げることも検討したい。近年発達障害の児童生徒の在籍が多くなっている病弱の特別支援学校も検討したい。最後に、保護者連携については保護者を招いての授業の可能性についても検討したい。